



水稲用 中・後期除草剤

直播、
無人航空機、
WCS用稲にも
使える

鉄拳[®] 1キロ粒剤



〈写真はイメージです〉

問題雑草に鉄拳!

4葉期まで	4葉期まで	草丈20cm以下	草丈30cm以下 発生盛期～矢じり葉抽出期	必ず湿水状態で散布
ノビエ	ホタルイ	クログワイ	オモダカ	

■効果発現事例

〔社内試験〕 日本農薬(株) 2012年

ノビエ					
	散布前	1週間後	2週間後 効果進行	3週間後 効果完成	無処理
オモダカ					
	散布前	1週間後	2週間後 効果進行	3週間後 効果完成	無処理

散布後 1 週間でノビエは生育停止、オモダカやホタルイは白化が確認でき、およそ3週間で効果が完成します。

®は日本農薬(株)の登録商標

※テックン1キロ粒剤は、「稲発酵粗飼料生産・給与技術マニュアル」に記載。



水稲用 中・後期除草剤

テツケン 1キロ粒剤

有効成分：ペノキスラム …………… 0.50%

ベンゾビシクロン …………… 2.0%

安全性：普通物(毒劇物に該当しないものを指すという通称)

特長

- ペノキスラムにベンゾビシクロンを混合することにより残効性を強化した1キロ粒剤タイプの中・後期除草剤です。
- 落水せずに散布できるため省力的です。
- ノビエをはじめ、ホタルイや一年生雑草等のSU抵抗性雑草、オモダカ、クログワイなどの多年生雑草に対して高い除草効果を示します。

適用雑草名および使用方法

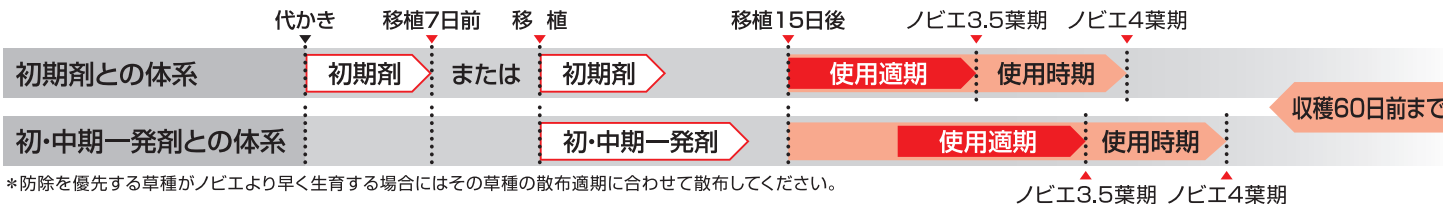
2020年10月現在の登録内容

作物名	適用雑草名	使用時期	使用量	本剤の使用回数	使用方法	ペノキスラムを含む農薬の総使用回数	ベンゾビシクロンを含む農薬の総使用回数
移植水稲	一年生雑草及び多年生広葉雑草	移植後15日～ノビエ4葉期 但し、 収穫60日前まで	1kg/10a	1回	湛水散布 又は 無人航空機 による散布	2回以内	3回以内
直播水稲	一年生雑草及びマツバイ ホタルイ ミズガヤツリ ウリカワ ヒルムシロ	稲4葉期～ノビエ4葉期 但し、 収穫60日前まで					

上手な使い方 (移植水稲)

湛水のまま田面に均一に散布する

多年生雑草は必ず適期に散布する



注意事項

- 多年生雑草は生育段階によって効果にフレが出るので、必ず適期に散布するように注意する。ホタルイ、ヘラオモダカ、ミズガヤツリは4葉期まで、ウリカワは5葉期まで、ヒルムシロは発生期まで、オモダカは発生盛期～矢じり葉抽出期(草丈30cm以下)、クログワイ、シズイ、コウキヤガラは草丈20cm以下まで、セリは再生前～再生始期までが本剤の散布適期である。
- クログワイ、オモダカ、シズイ、コウキヤガラは必要に応じて有効な前処理剤と組み合わせて使用する。また、クログワイ、オモダカに有効な前処理剤と組み合わせて連年施用することにより、さらに効果が向上する。
- 苗の植付が均一となるように代かきをていねいに行う。未熟有機物を施用した場合は特にていねいに行う。
- 散布に当たっては、水の出入りを止めて湛水のまま田面に均一に散布し、少なくとも3～4日間は通常の湛水状態(水深3～5cm)を保ち、田面を露出させたり水を切らしたりしないように注意する。また、散布後7日間は落水、かけ流しをしない。
- 前処理剤との体系で使用し、雑草の発生状況をよく確認し、時期を失ないように散布する。
- 次のような条件では、初期生育抑制を生じるおそれがあるので、使用をさける。特に、これらの条件が重なる場合は、初期生育が著しく抑制されるので注意する。
 - ・ 散布後低温が続くと予想される時・異常高温の時、あるいは散布後数日以内に梅雨明けになるなど異常高温が予想される時・活着遅延を生じるような異常低温の時・砂質土壌の水田及び漏水の大きな水田(減水深2cm/日以上)・軟弱な苗を移植した水田・極端な浅植の水田・植え穴のもどりが悪い水田・稲の根が露出した水田
- 散布後数日間著しい高温が続く場合、初期生育が抑制されることがあるが、一過性のもので次第に回復し、その後の生育に対する影響は認められていない。
- 無人航空機で散布する場合は次の注意を守る。
 - ① 散布は使用機種の使用基準に従って実施する。
 - ② 専用の粒剤散布装置によって湛水散布する。
 - ③ 事前に薬剤の物理性に合わせて粒剤散布装置のメタリング開度を調整する。
 - ④ 散布薬剤の飛散によって他の植物に影響を与えないよう散布区域の選定に注意し、当該水田周辺部への飛散防止のため散布装置のインペラの回転数を調整し、圃場の端から5m以上離れて圃場内に散布する。
 - ⑤ 水源地、飲料用水等に飛散、流入しないように十分注意する。
- 直播水稲に使用する場合は以下に注意する。
 - ① 稲の根が露出した条件では薬害を生じるおそれがあるので、使用をさける。
 - ② 除草効果の低下と生育抑制の薬害が発生するおそれがあるので、入水後水持ちの安定した後には散布する。
- いくさ、れんこん、せり、くわいなどの生育を阻害するおそれがあるので、これら作物の生育期に隣接田で使用する場合は、十分注意する。
- いくさ栽培予定水田では使用しない。
- 空袋等は圃場などに放置せず、環境に影響のないよう適切に処理する。
- 散布田の水田水を他の作物に灌水しない。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。

使用前にはラベルをよく読む。 ラベルの記載以外には使用しない。 小児の手の届く所には置かない。

LINE公式アカウントはじめました!

友だち募集中 最新情報をLINEで配信!

@nichino

NICHINO 東京都中央区
京橋1丁目
日本農薬株式会社 19番8号

TEL: 0570-09-1177 URL: <https://www.nichino.co.jp/>
2024年9月作成版(TS)BV12409S